

# 東北地方太平洋沖地震発生後の 東海第二発電所の状況についてお知らせいたします。

本年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた皆さまにお見舞い申し上げます。被災された皆さまの一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

今回の地震により、運転中であった東海第二発電所では、原子炉が自動停止しました。その後、外部からの電源を受電できなくなったこと(外部電源喪失)に伴い、非常用ディーゼル発電機が自動的に起動し、安全に原子炉の冷却が行われました。現在は、外部からの電源も復旧し、安全な停止状態となっております。また、使用済燃料プールの冷却も安全に行われています。なお、外部への放射能の影響はありません。

## 東海第二発電所の対応状況

平成23年3月11日14時46分頃 東北地方太平洋沖地震が発生

3月11日

- 地震により、原子炉が自動停止しました。
- 外部からの電源を受電できなくなりましたが、非常用ディーゼル発電機3台が自動的に起動して、発電所で必要な電源を確保しました。
- 緊急時に炉心を冷却する機器(原子炉隔離時冷却系および高圧炉心スプレイ系)により原子炉の冷却を開始しました。
- 津波の影響で海水ポンプエリアが冠水したことにより1台の海水ポンプが停止したことに伴い、非常用ディーゼル発電機1台が停止しましたが、残り2台で原子炉の冷却に必要な電源を確保し、安全に原子炉の冷却を行いました。

3月13日

外部予備電源(154kV)が復旧しました。

3月15日

原子炉は冷温停止(原子炉水温度:100℃未満、原子炉圧力:大気圧)状態になりました。

3月18日

外部常用電源(275kV)が復旧しました。

3月22日

津波の影響により停止した1台の海水ポンプの点検、補修が完了し、運転可能な状態となったことから、非常用ディーゼル発電機3台が待機中となり、通常の状態になりました。

現在の状況(4月11日現在)

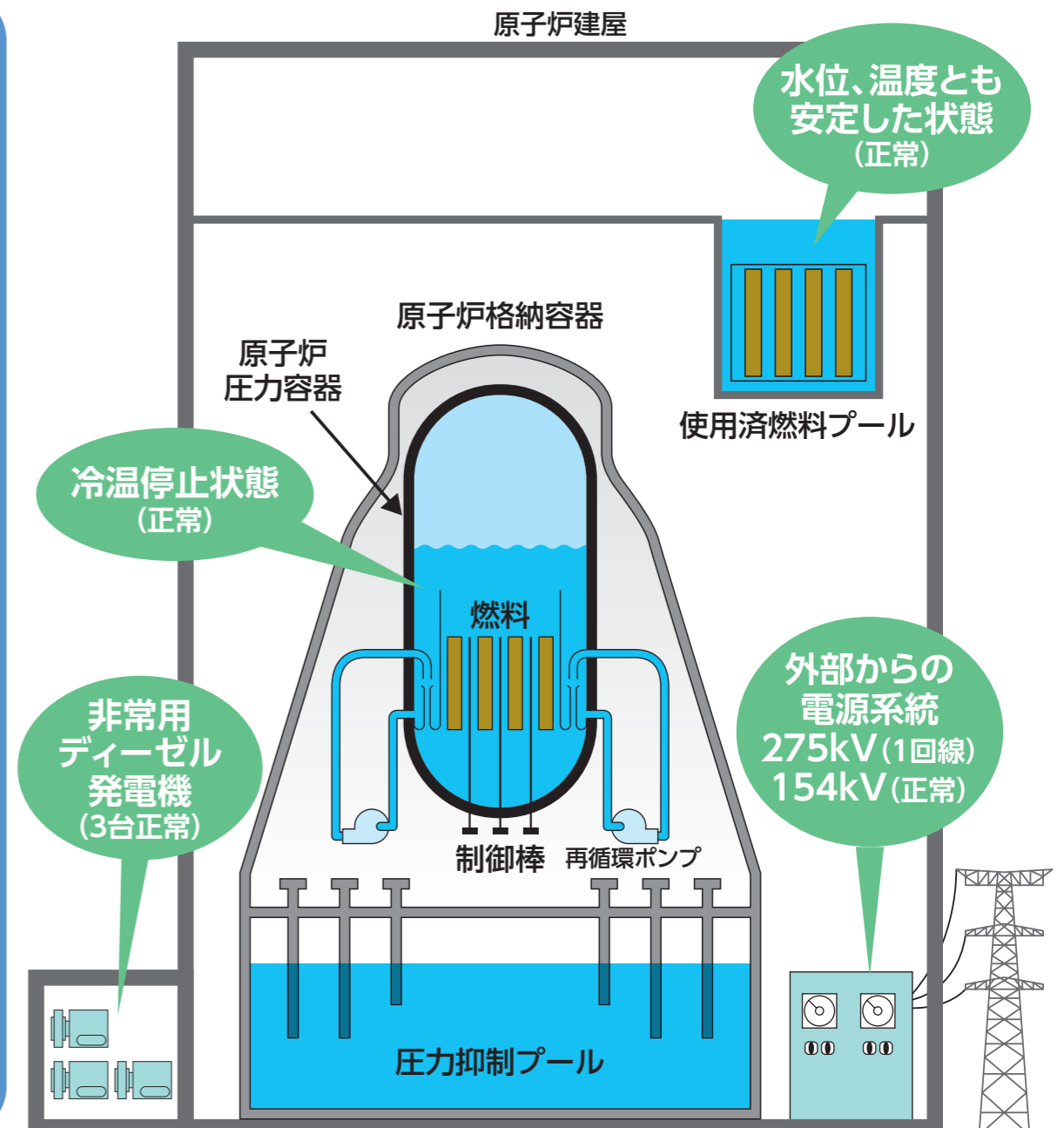
### ① 原子炉施設の状況

- 原子炉は冷温停止状態で水位、圧力、温度とも安定した状態です。
- 使用済燃料プールは水位、温度とも安定した状態です。
- 環境監視モニタの指示値は通常より若干高めを示していますが、他発電所の影響を受けたもので発電所は問題ありません。
- 外部への放射能の影響はありません。

### ② 電源系統

- 外部常用電源(275kV 1回線)で発電所内電源系統は確保しております。
- 外部予備電源(154kV)は待機中です。
- 非常用ディーゼル発電機(3台)は待機中です。(停止した1台の非常用ディーゼル発電機の海水ポンプエリアへの海水浸入路については、既に閉止しております。)

## 東海第二発電所の状況(4月11日現在)



# 東海第二発電所における安全性向上対策について

3月11日の東北地方太平洋沖地震により、東京電力(株)福島第一原子力発電所の原子炉は自動停止しましたが、送電線の故障により外部電源から受電できなくなり、さらに、非常用ディーゼル発電機が津波の影響で停止しました。その結果、発電所で必要な電源が失われ、原子炉と使用済燃料プールを正常に冷却できなくなり、甚大な事故となりました。

当社は、地震後直ちに、喫緊の対策として非常用ディーゼル発電機が使えなくなった場合に備え移動可能なディーゼル発電機を、また原子炉と使用済燃料プールに水を直接注入するために消防車等を緊急配備しました。また、それらの設備、資機材を用いた緊急時対応訓練を実施しました。当社は、今後、さらに国から指示のあった当面の安全対策も含め現段階で考えられる対策(緊急時の電源の確保、原子炉と使用済燃料プールの冷却確保、津波対策の強化)について、順次速やかに実施してまいります。今回の福島第一原子力発電所の事故の状況やこのような事態に至った原因等について積極的な情報収集と分析に努め、新たな知見に基づいて発電所の安全性をさらに向上するために必要な対策を講じてまいります。

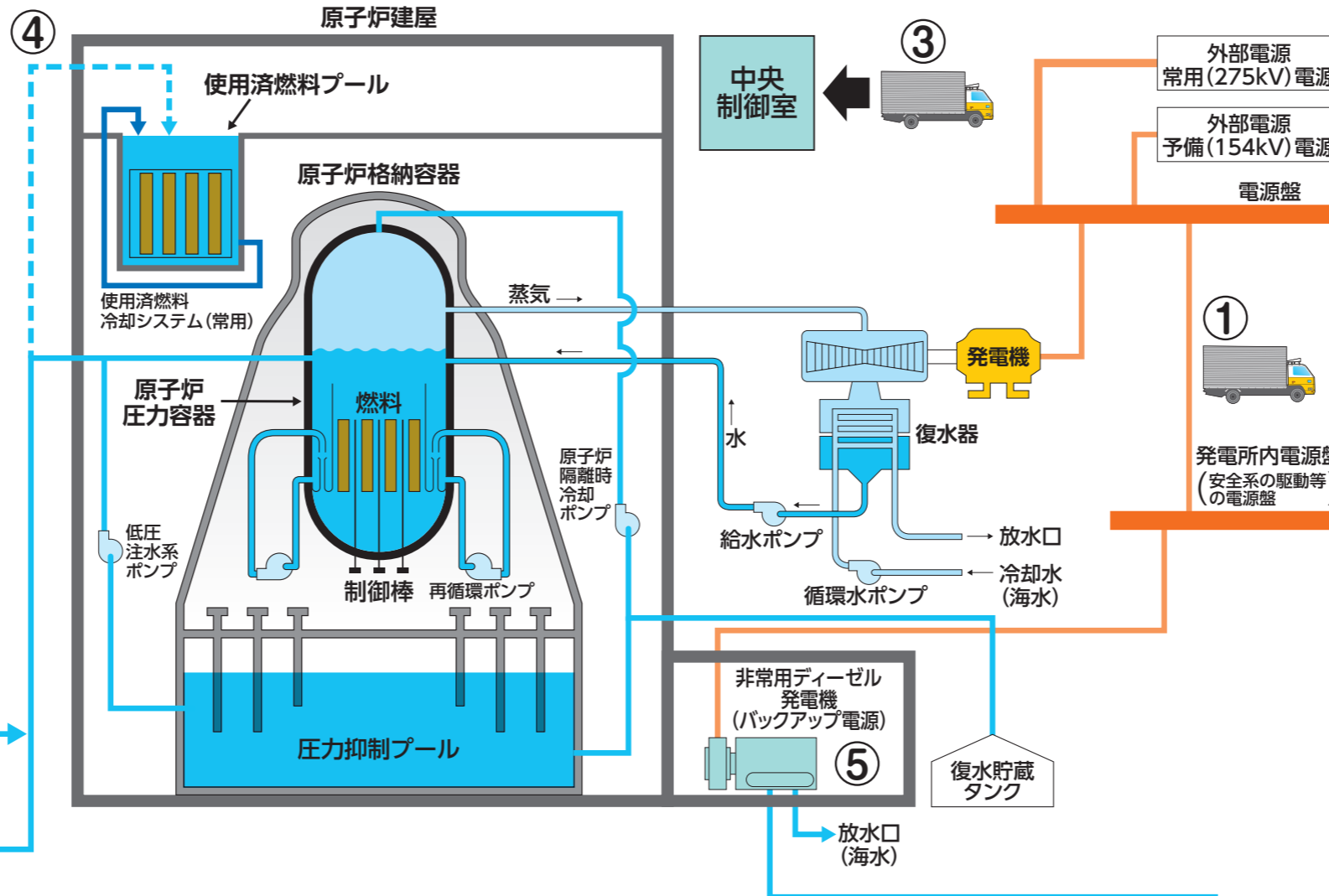
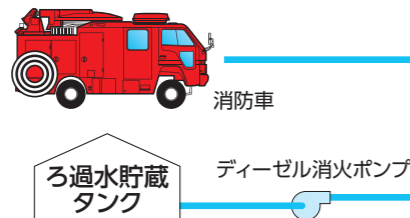
## 緊急時対応訓練の強化

外部からの電源がなくなり、さらに非常用ディーゼル発電機が使えなくなるという厳しい事態を想定し、消防車による使用済燃料プールへの給水模擬訓練、仮設電源を用いた電源復旧訓練等の緊急時対応の防災訓練を実施します。

## 冷却機能の確保

### 4 原子炉および使用済燃料プールへの給水機能の強化

原子炉および使用済燃料プールの水位が低下し、原子炉内の燃料や使用済燃料が露出するのを防ぐため、消防車から原子炉や使用済燃料プールに直接水を注入できる専用の配管を新たに設置します。



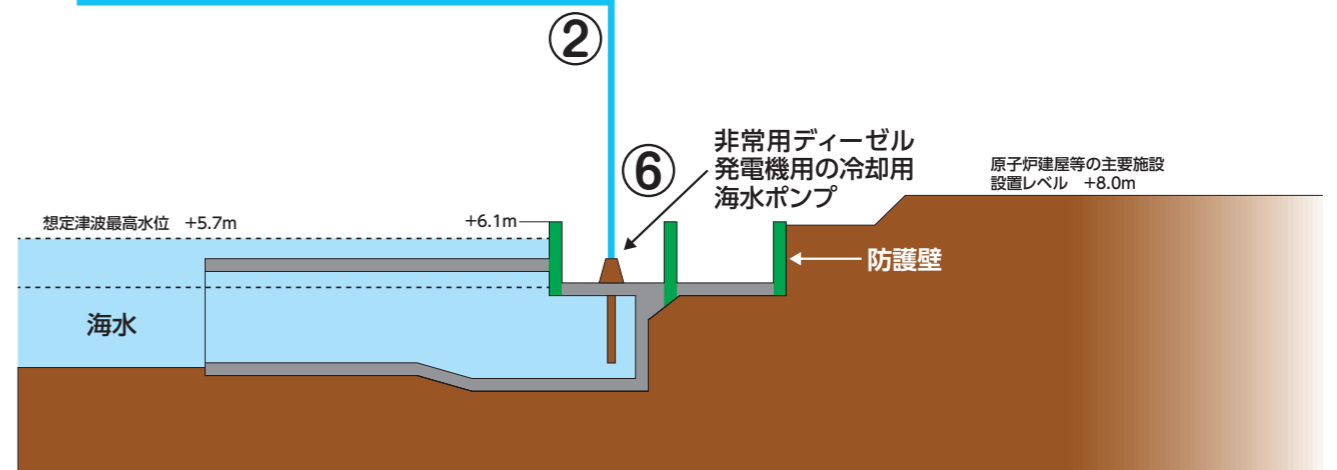
## 津波対策の強化

### 5 建屋の水密性の強化

非常用ディーゼル発電機室や電気室など発電所の安全上重要な設備が設置されている区画への津波の浸入を防止するために、区画入口扉の水密扉への取替等を実施します。

### 6 海水ポンプの津波対策強化 (防護壁等の対策)

海水ポンプの電動機(モーター)が、津波の影響を受けないように防護壁等の対策を実施します。



## 電源の確保

### 1 非常用ディーゼル発電機代替電源の確保

原子炉の冷却に必要な外部からの電源がなくなり、さらに非常用ディーゼル発電機が使えなくなった場合に備え、必要な発電能力を持った空冷式の電源車を津波の影響を受けない場所に配備します。



### 2 非常用ディーゼル発電機冷却用可搬型の海水ポンプを配備

非常用ディーゼル発電機を冷却する海水ポンプが津波で使えなくなった場合に備え、移動可能な可搬式のエンジン駆動ポンプを新たに配備します。



### 3 移動式電源の配備

非常用ディーゼル発電機が使えなくなった場合に備え、中央制御室の監視機能等を維持できるような発電能力を持った移動可能なディーゼル発電機を緊急配備しました。

お問い合わせ先



日本原子力発電株式会社 東海事務所

茨城県那珂郡東海村白方1-1 Tel.029(287)1250 当社ホームページ <http://www.japc.co.jp/>